

定期作況報告

平成29年11月
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬・中旬がともに平年よりやや高く、下旬はやや低かった。月平均気温は5.0℃で平年よりやや高かった(+0.6℃)。降水量は上旬がゼロで、中旬は平年より極めて多く、下旬はやや少なく、月合計は36.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬・中旬・下旬ともに平年並で、月合計は205.5時間で平年並であった。

5月：平均気温は上旬・中旬・下旬ともに平年より高かった。月平均気温は12.1℃で平年より高かった(+1.8℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬はやや多く、下旬は多く、月合計は72.5mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬が平年より多く、中旬は平年並で、下旬はやや少なく、月合計は195.7時間で平年並であった。

6月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬は低く、下旬は平年並であった。月平均気温は13.6℃で平年より低かった(-1.7℃)。降水量は上旬・中旬・下旬ともに平年より多く、月合計は124.0mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬は多く、下旬はやや少なく、月合計は156.8時間で平年並であった。

7月：平均気温は上旬が平年より高く、中旬は極めて高く、下旬はやや高かった。月平均気温は20.9℃で平年より高かった(+2.1℃)。降水量は上旬が平年並で、中旬は極めて多く、下旬は少なく、月合計は140.0mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬・中旬がともに平年よりやや多く、下旬は平年並で、月合計は181.4時間で平年並であった。

8月：平均気温は上旬・中旬がともに平年より極めて低く、下旬は平年並であった。月平均気温は18.3℃で平年より低かった(-1.8℃)。降水量は上旬・中旬・下旬ともに平年より少なく、月合計は23.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は84.8時間で平年より少なかった。

9月：平均気温は上旬・中旬がともに平年より低く、下旬は平年並であった。月平均気温は14.4℃で平年よりやや低かった(-1.5℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬はやや少なく、月合計は116.5mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともにやや少なく、月合計は138.8時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬が平年並で、中旬は極めて低く、下旬は平年並であった。月平均気温は7.3℃で平年よりやや低かった(-1.1℃)。降水量は上旬がゼロで、中旬は少なく、下旬は極めて多く、月合計は51.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬・中旬・下旬ともに平年並で、月合計は165.8時間で平年並であった。

11月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬はやや低かった。中旬までの平均気温は2.3℃で平年並であった(-0.5℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年並で、中旬までの合計は39.0mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬ともに平年よりやや多く、中旬までの合計は104.0時間で平年よりやや多かった。

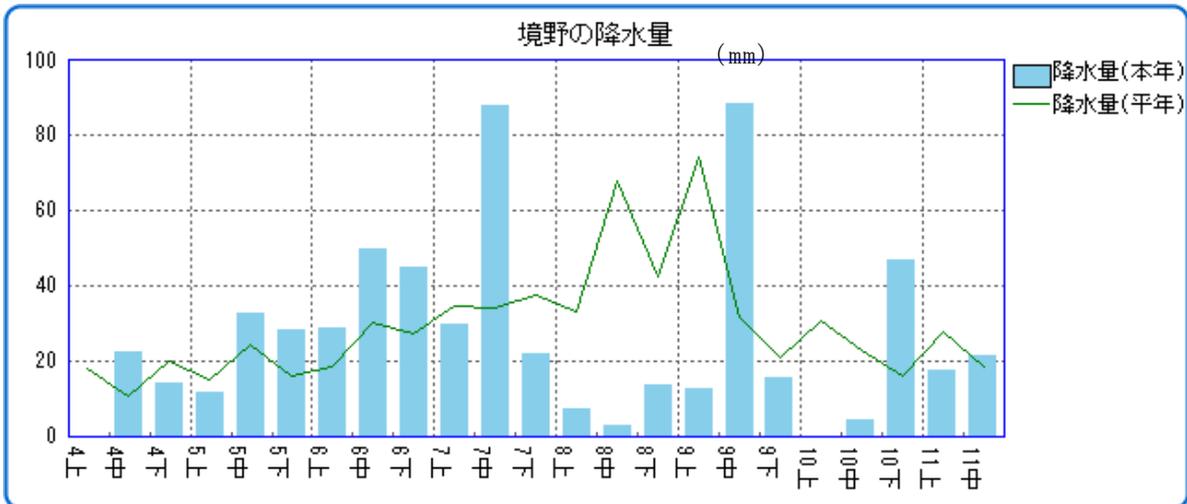
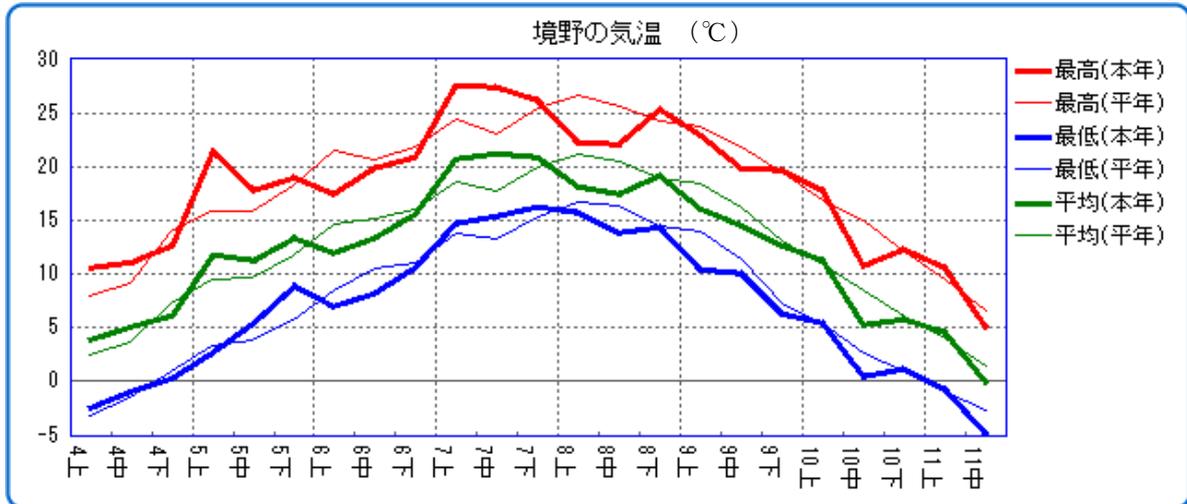
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は高く、6月は低く、7月は高く、8月は低く、9月はやや低かった。この期間の日平均気温の積算値は2433℃で平年並であった(平年差-29℃、平年比99%)。

降水量：5月はやや多く、6月は多く、7月はやや多く、8月は少なく、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は477mmで平年並であった(平年差-29mm、平年比94%)。

日照時間：5月・6月・7月は平年並で、8月は少なく、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は758時間で平年並であった(平年差-27時間、平年比97%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
平成29年 4月	上旬	3.9	2.4	1.5	10.6	7.9	2.7	-2.4	-3.2	0.8	0.0	17.9	-17.9	73.8	63.9	9.9
	中旬	5.1	3.7	1.4	11.1	9.2	1.9	-1.0	-1.4	0.4	22.5	10.4	12.1	64.4	57.8	6.6
	下旬	6.1	7.2	-1.1	12.6	14.0	-1.4	0.2	0.9	-0.7	14.0	20.0	-6.0	67.3	58.7	8.6
5月	上旬	11.7	9.3	2.2	21.3	15.9	5.4	2.6	3.4	-0.8	11.5	14.9	-3.4	90.3	50.6	39.7
	中旬	11.2	9.6	1.6	17.8	15.8	2.0	5.5	3.8	1.7	32.5	24.1	8.4	63.4	53.3	10.1
	下旬	13.3	11.7	1.6	18.9	18.2	0.7	8.9	5.7	3.2	28.5	16.1	12.4	42.0	64.4	-22.4
6月	上旬	11.9	14.7	-2.8	17.4	21.5	-4.1	6.9	8.5	-1.6	29.0	18.3	10.7	46.5	63.6	-17.1
	中旬	13.4	15.2	-1.8	19.8	20.6	-0.8	8.1	10.6	-2.5	50.0	30.0	20.0	69.0	47.1	21.9
	下旬	15.6	16.0	-0.4	20.8	21.8	-1.0	10.6	11.1	-0.5	45.0	27.2	17.8	41.3	52.9	-11.6
7月	上旬	20.7	18.6	2.1	27.6	24.4	3.2	14.7	13.8	0.9	30.0	34.4	-4.4	65.9	51.5	14.4
	中旬	21.2	17.8	3.4	27.3	23.1	4.2	15.4	13.3	2.1	88.0	33.9	54.1	64.7	46.9	17.8
	下旬	20.8	20.0	0.8	26.2	25.5	0.7	16.2	15.3	0.9	22.0	37.4	-15.4	50.8	57.0	-6.2
8月	上旬	18.2	21.2	-3.0	22.2	26.6	-4.4	15.8	16.7	-0.9	7.0	32.9	-25.9	16.0	50.5	-34.5
	中旬	17.5	20.4	-2.9	22.1	25.6	-3.5	13.8	16.3	-2.5	3.0	67.7	-64.7	25.1	42.3	-17.2
	下旬	19.2	18.9	0.3	25.4	24.2	1.2	14.3	14.4	-0.1	13.5	42.6	-29.1	43.7	48.8	-5.1
9月	上旬	16.1	18.5	-2.4	22.9	23.8	-0.9	10.4	14.0	-3.6	12.5	74.1	-61.6	56.8	45.6	11.2
	中旬	14.5	16.2	-1.7	19.9	21.9	-2.0	10.1	11.3	-1.2	88.5	31.6	56.9	33.7	48.8	-15.1
	下旬	12.7	13.1	-0.4	19.7	19.4	0.3	6.2	7.3	-1.1	15.5	21.0	-5.5	48.3	61.5	-13.2
10月	上旬	11.2	10.9	0.3	17.7	16.9	0.8	5.5	5.3	0.2	0.0	30.5	-30.5	53.2	57.2	-4.0
	中旬	5.2	8.4	-3.2	10.8	15.0	-4.2	0.4	2.6	-2.2	4.5	22.8	-18.3	48.4	53.0	-4.6
	下旬	5.7	6.1	-0.4	12.2	12.1	0.1	1.1	0.9	0.2	47.0	15.7	31.3	64.2	55.3	8.9
11月	上旬	4.6	4.0	0.6	10.6	9.5	1.1	-0.8	-0.9	0.1	17.5	27.7	-10.2	52.1	40.2	11.9
	中旬	0.0	1.5	-1.5	5.1	6.5	-1.4	-4.8	-2.7	-2.1	21.5	18.6	2.9	51.9	41.7	10.2
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
4月		5.0	4.4	0.6	11.4	10.4	1.0	-1.1	-1.2	0.1	36.5	48.3	-11.8	205.5	180.4	25.1
5月		12.1	10.3	1.8	19.3	16.7	2.6	5.8	4.3	1.5	72.5	55.1	17.4	195.7	168.3	27.4
6月		13.6	15.3	-1.7	19.3	21.3	-2.0	8.5	10.1	-1.6	124.0	75.5	48.5	156.8	163.6	-6.8
7月		20.9	18.8	2.1	27.0	24.4	2.6	15.5	14.2	1.3	140.0	105.7	34.3	181.4	155.4	26.0
8月		18.3	20.1	-1.8	23.3	25.4	-2.1	14.6	15.8	-1.2	23.5	143.2	-119.7	84.8	141.6	-56.8
9月		14.4	15.9	-1.5	20.8	21.7	-0.9	8.9	10.9	-2.0	116.5	126.7	-10.2	138.8	155.9	-17.1
10月		7.3	8.4	-1.1	13.5	14.6	-1.1	2.3	2.9	-0.6	51.5	69.0	-17.5	165.8	165.5	0.3
11月(中旬まで)		2.3	2.8	-0.5	7.9	8.0	-0.1	-2.8	-1.8	-1.0	39.0	46.3	-7.3	104.0	81.9	22.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H28.10.5	H28.12.6	H29.4.7	123	H29.4.23	H29.4.25	H29.5.9	H29.10.17	160	H29.10.23
平年	10.13	12.5	4.10	128	5.4	4.28	5.7	10.12	156	11.1
比較	-8	1	-3	-5	-11	-3	2	5	4	-9

項目		平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
5月上旬 ~ 9月下旬	本年	2433	477	758
	平年	2462	506	785
	比較	-29	-29	-27

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。平年値は前10か年の平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成28年9月播種） 作況：不良

事由：播種は平年より2日早い9月15日に行った。出芽期は平年より2日早い9月23日で、出芽は良好であった。出芽後の平均気温はほぼ平年並に経過したが、10月下旬～11月上旬は平年より極めて低く、11月上旬～中旬に2週間程度の積雪があり、生育は停滞した。越冬前（11月20日）の草丈は平年並、茎数は平年を下回ったが、越冬に必要な生育量は確保した。根雪始は平年より1日遅い12月6日、融雪期は平年より3日早い4月7日で、根雪期間は平年より5日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が観測点より14日早い3月24日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、平均気温は5月まで高めに経過し生育が進んだが、6月上旬は極めて低かったため、出穂期は平年より1日早い6月8日であった。6月中～下旬の平均気温は平年並から低かったが、7月上～中旬は高く経過し、登熟が促進されたことから成熟期は7月21日で平年より4日早く、登熟期間は平年より3日短かった。稈長、穂長は平年よりやや短く、穂数は少なかった。倒伏は未発生であった。リットル重は平年並であったが、千粒重は平年を下回った。穂数が少なかったことと千粒重が小さかったことから、子実重は平年比93%であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成28年月.日)	9.15	9.17	△2
出芽期 (平成28年月.日)	9.23	9.25	△2
出穂期 (平成29年月.日)	6.8	6.9	△1
成熟期 (平成29年月.日)	7.21	7.25	△4
草丈(cm) (平成28年11月20日)	18.1	18.5	△0.4
草丈(cm) (平成29年5月20日)	39.9	37.4	2.5
草丈(cm) (平成29年6月20日)	91.9	91.2	0.7
茎数(本/m ²) (平成28年11月20日)	1039	1258	△219
茎数(本/m ²) (平成29年5月20日)	1275	1486	△211
茎数(本/m ²) (平成29年6月20日)	658	758	△100
稈長(cm) (成熟期)	81	84	△3
穂長(cm) (成熟期)	8.1	8.8	△0.7
穂数(本/m ²) (成熟期)	644	735	△91
子実重(kg/10a)	675	722	△47
同上平年比(%)	93	100	△7
リットル重(g)	799	800	△1
千粒重(g)	36.6	38.8	△2.2
品質(検査等級)	1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 秋まき小麦(平成29年9月播種) 作況: やや不良

事由: 9月中旬は降水量が多く畑の耕起が遅れたことから、播種は平年より5日遅い9月22日に行った。出芽期は平年より5日遅い9月30日であった。出芽後、10月中旬の平均気温が平年より極めて低かったため、越冬前の草丈、茎数は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成29年月.日)	9.22	9.17	5
出芽期 (平成29年月.日)	9.30	9.25	5
草丈(cm) (平成29年11月20日)	12.1	18.5	△6.4
茎数(本/m ²) (平成29年11月20日)	840	1258	△418

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 春まき小麦

作 況 : 不良

事 由：調査圃場は融雪剤散布により3月26日に融雪期となった。播種期は平年並の4月17日であった。播種後の平均気温は、4月下旬が平年よりやや低かったが、5月上旬は高く、出芽期は平年並から1日遅かった。出芽後の5月上中旬の気温は高く生育は順調で、草丈は平年をやや上回り、茎数はやや少なかった。6月上中旬の気温が平年より低く経過したことから、出穂期は平年より3～4日遅かった。開花後の7月上中旬は降水量が平年並から多く、気温も高かったことから赤かび病の発生が目立った。また、7月16日の大雨によって両品種とも倒伏程度は甚となった。稈長、穂長は平年並で、穂数は多かった。7月の気温が高かったことから登熟は進み、成熟期は平年並から1日遅かった。このため、登熟期間は平年より3日短くなった。早期での倒伏や登熟期間が短くなった影響から、子実重は平年比64～65%と低収で、リットル重と千粒重は平年を大きく下回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.17	4.17	0	4.17	4.17	0	
出芽期 (月.日)	5.3	5.2	1	5.3	5.3	0	
出穂期 (月.日)	6.26	6.23	3	6.25	6.21	4	
成熟期 (月.日)	8.5	8.5	0	8.7	8.6	1	
草丈 (cm)	(5月20日)	16.8	15.5	1.3	18.2	15.7	2.5
	(6月20日)	73.1	69.4	3.7	70.4	69.3	1.1
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	392	457	△ 65	412	435	△ 23
	(6月20日)	758	822	△ 64	759	813	△ 54
稈長 (cm) (7月20日)	93	97	△ 4	90	94	△ 4	
穂長 (cm) (7月20日)	7.9	8.0	△ 0.1	7.5	7.4	0.1	
穂数 (本/m ²) (7月20日)	799	595	204	803	609	194	
子実重 (kg/10a)	335	518	△ 183	333	517	△ 184	
同上平年比 (%)	65	100	△ 35	64	100	△ 36	
リットル重 (g)	731	806	△ 75	741	805	△ 64	
千粒重 (g)	31.9	39.4	△ 7.5	34.9	41.4	△ 6.5	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや良

事 由 : 播種期は平年より2日早い5月15日で、出芽期も平年より2日早い5月29日であった。出芽後、6月上・中旬の気温が平年より低かったものの、7月の気温が全般に平年より高く推移したため、開花期は平年と同日で、抽糸期は平年より1日遅かった。抽糸期後は8月下旬を除いて気温が平年より低く推移したが、8月20日の草丈と葉数および9月20日の稈長はいずれも平年並であった。収穫期は平年より1日遅い9月25日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率は平年より低かった。乾物茎葉重は平年より多く、乾物雌穂重は平年並で、乾物総重および推定TDN収量はそれぞれ平年比106%、105%と平年よりやや多かった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.15	5.17	△2	
出芽期 (月.日)	5.29	5.31	△2	
開花期 (月.日)	8.1	8.1	0	
抽糸期 (月.日)	8.1	7.31	1	
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	1	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	24.1	31.3	△7.2
	(7月20日)	182.6	181.4	1.2
	(8月20日)	322.6	306.9	15.7
稈長 (cm)	(9月20日)	283	272	11
葉数 (枚)	(6月20日)	4.4	4.8	△0.4
	(7月20日)	13.2	12.6	0.6
	(8月20日)	15.0	14.9	0.1
生総重 (kg/10a)	7609	6567	1042	
乾物茎葉重 (kg/10a)	1055	933	122	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1042	1047	△5	
乾物総重 (kg/10a)	2096	1979	117	
同上平年比 (%)	106	100	6	
推定TDN収量 (kg/10a)	1499	1432	67	
同上平年比 (%)	105	100	5	
総体の乾物率 (%)	27.6	30.2	△2.6	
乾雌穂重割合 (%)	49.7	52.9	△3.2	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.3	0.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：やや不良

事 由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。出芽後の低温で生育は停滞したが、6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため生育の遅れはやや回復し、開花始は平年より1日遅い7月18日であった。8月上～中旬が低温寡照、9月上旬以降も低温で経過したことから、成熟期は平年より1日遅い9月24日で、主茎長、主茎節数、分枝数とも平年をやや下回った。開花期間である7月下旬の気温が比較的高かったことから、着莢数は平年をやや上回った。一莢内粒数は平年をやや上回ったが、百粒重が平年を大きく下回ったため、子実重は平年比95%とやや低収であった。品質は平年をやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.23	△ 4
出芽期	(月.日)	6. 1	6. 5	△ 4
開花始	(月.日)	7.18	7.17	1
成熟期	(月.日)	9.24	9.23	1
主茎長(cm)	(6月20日)	10.0	12.1	△ 2.1
	(7月20日)	51.2	56.7	△ 5.5
	(8月20日)	66.8	72.1	△ 5.3
	(9月20日)	67.1	73.2	△ 6.1
	(成熟期)	67.7	72.9	△ 5.2
本葉数(枚)	(6月20日)	0.2	1.3	△ 1.1
	(7月20日)	8.3	7.7	0.6
主茎節数	(8月20日)	10.6	11.3	△ 0.7
	(9月20日)	10.8	11.3	△ 0.5
	(成熟期)	10.9	11.2	△ 0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	4.4	5.1	△ 0.7
	(8月20日)	4.8	5.7	△ 0.9
	(9月20日)	4.3	5.5	△ 1.2
	(成熟期)	4.5	5.3	△ 0.8
着莢数(個/株)	(8月20日)	83.6	78.2	5.4
	(9月20日)	77.3	68.6	8.7
	(成熟期)	73.4	69.3	4.1
一莢内粒数		1.97	1.87	0.10
子実重(kg/10a)		357	376	△ 19
同上平年比(%)		95	100	△ 5
百粒重(g)		30.3	36.2	△ 5.9
屑粒率(%)		1.4	0.9	0.5
品質(検査等級)		1	2上	—

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆

作況：不良

事由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。6月上中旬の気温が低く経過したため出芽期は平年並で、主茎長、本葉数とも平年を下回って推移した。6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため生育はやや回復し、開花始は「サホロショウズ」で平年並、「エリモショウズ」では平年より2日早かった。しかし、8月上～中旬が低温寡照に経過し、開花・着莢の進行は遅れた。9月上旬以降も低温で経過したため登熟は遅れ、成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で15日、「エリモショウズ」で12日遅かった。両品種ともに一莢内粒数、百粒重は平年を上回ったが、着莢数が平年をかなり下回り、子実重は「サホロショウズ」で平年比79%、「エリモショウズ」で同87%と低収であった。品質は両品種とも平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.19	5.23	△ 4	5.19	5.23	△ 4	
出芽期 (月.日)	6. 8	6. 7	1	6. 8	6. 8	0	
開花始 (月.日)	7.21	7.21	0	7.22	7.24	△ 2	
成熟期 (月.日)	9.29	9.14	15	10. 2	9.20	12	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.4	4.2	△ 0.8	3.6	4.4	△ 0.8
	(7月20日)	17.7	23.6	△ 5.9	19.5	21.7	△ 2.2
	(8月20日)	74.3	82.3	△ 8.0	67.3	72.7	△ 5.4
	(9月20日)	71.2	91.9	△20.7	63.1	79.4	△16.3
	(成熟期)	71.6	93.7	△22.1	67.0	79.4	△12.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	0.8	△ 0.6	0.1	0.8	△ 0.7
	(7月20日)	7.4	7.1	0.3	8.2	7.2	1.0
主茎節数	(8月20日)	13.5	13.8	△ 0.3	14.7	14.3	0.4
	(9月20日)	12.2	14.3	△ 2.1	12.8	14.7	△ 1.9
	(成熟期)	12.5	14.4	△ 1.9	13.4	14.6	△ 1.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	1.5	3.1	△ 1.6	1.2	3.1	△ 1.9
	(8月20日)	3.9	4.7	△ 0.8	4.3	4.8	△ 0.5
	(9月20日)	2.8	4.4	△ 1.6	2.3	4.4	△ 2.1
	(成熟期)	2.3	4.4	△ 2.1	2.8	4.4	△ 1.6
着莢数 (個/株)	(8月20日)	29.4	59.6	△30.2	30.8	62.2	△31.4
	(9月20日)	44.2	59.6	△15.4	45.5	59.6	△14.1
	(成熟期)	40.7	58.9	△18.2	44.7	60.3	△15.6
一莢内粒数	6.65	5.91	0.74	6.68	6.48	0.20	
子実重 (kg/10a)	312	395	△ 83	351	405	△ 54	
同上平年比 (%)	79	100	△ 21	87	100	△ 13	
百粒重 (g)	16.6	14.3	2.3	15.6	13.4	2.2	
屑粒率 (%)	8.9	1.9	7.0	6.0	1.9	4.1	
品質 (検査等級)	4中	3下	—	4中	3中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

7) 菜豆

作況：やや不良

事由：播種は平年より4日早い5月19日に行った。出芽後の低温で生育は停滞したが、6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため生育は回復し、開花始は平年並の7月8日であった。8月上～中旬が低温寡照に経過し、9月上旬も低温であったため、成熟期は平年より9日遅い9月7日であった。百粒重は平年を上回ったが、着莢数および一莢内粒数が平年を下回ったため、子実重は平年比94%とやや低収であった。屑粒率は平年より高く、品質は平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.23	△ 4
出芽期	(月.日)	6.1	6.6	△ 5
開花始	(月.日)	7.8	7.8	0
成熟期	(月.日)	9.7	8.29	9
草丈 (cm)	(6月20日)	11.6	11.0	0.6
	(7月20日)	37.5	47.1	△ 9.6
	(8月20日)	47.8	50.3	△ 2.5
	(9月20日)			
	(成熟期)	49.4	50.1	△ 0.7
本葉数(枚)	(6月20日)	0.3	1.3	△ 1.0
	(7月20日)	3.6	3.3	0.3
主莖節数	(8月20日)	5.3	5.2	0.1
	(9月20日)			
	(成熟期)	5.2	5.2	0.0
分枝数(本/株)	(7月20日)	6.5	5.3	1.2
	(8月20日)	6.0	5.0	1.0
	(9月20日)			
	(成熟期)	6.1	4.9	1.2
着莢数(個/株)	(8月20日)	17.1	22.0	△ 4.9
	(9月20日)			
	(成熟期)	17.2	21.0	△ 3.8
一莢内粒数		2.68	2.94	△ 0.26
子実重(kg/10a)		310	329	△ 19
同上平年比(%)		94	100	△ 6
百粒重(g)		77.7	68.8	8.9
屑粒率(%)		16.2	7.3	8.9
品質(検査等級)		3下	3上	—

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

8) ばれいしょ

作 況：平年並

事 由：植え付けは平年より3日早い5月9日に行った。5月中・下旬の気温が高かったことから、萌芽期は平年より3～4日早かったが、6月上・中旬の低温により、開花始はほぼ平年並であった。開花後の7月上・中旬は高温で降水量も多かったことから、茎長は両品種ともに平年よりやや長くなった。

「男爵薯」では、8月上旬より気温が低く経過したことから、枯ちよう期は平年より8日遅い9月7日であった。塊茎の肥大が進まず、上いも平均重は平年より軽く、上いも重は平年比96%であった。

「コナフブキ」では、枯ちよう期は平年より4日遅い10月8日であった。上いも数は平年よりやや多かったものの、上いも平均重が平年より10g軽く、上いも重は平年比98%であった。8月上旬から9月上旬まで降水量が少なかったことから、でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比103%であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.9	5.12	△3	5.9	5.12	△3
萌芽期	(月.日)	5.29	6.2	△4	5.31	6.3	△3
開花始	(月.日)	6.29	6.30	△1	6.30	6.30	0
枯ちよう期	(月.日)	9.7	8.30	8	10.8	10.4	4
茎長(cm)	(6月20日)	21.6	20.7	0.9	16.9	21.7	△4.8
	(7月20日)	57	51	6	83	70	13
	(8月20日)	57	51	6	98	79	19
茎数(本/株)	(6月20日)	4.3	3.6	0.7	3.0	3.2	△0.2
	(7月20日)	4.8	3.9	0.9	3.1	3.5	△0.4
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4338	4558	△220	3593	3819	△226
	(9月20日)	4423	4613	△190	4600	4797	△197
でん粉価(%)	(8月20日)	15.6	15.4	0.2	21.4	21.1	0.3
	(9月20日)	16.5	14.9	1.6	23.9	22.0	1.9
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1054	1011	43
上いも数(個/株)		10.8	10.6	0.2	11.3	10.5	0.8
上いも平均重(g)		92	99	△7	98	108	△10
上いも重(kg/10a)		4423	4613	△190	4901	5010	△109
同上平年比(%)		96	100	△4	98	100	△2
でん粉価(%)		16.5	14.9	1.6	23.1	22.1	1.0
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1085	1058	27
同上平年比(%)		—	—	—	103	100	3

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：平年並

事 由：移植栽培での播種は、平年並の3月22日に行った。育苗期間中は平均気温が平年より高めに推移したため、苗の生育は平年よりやや旺盛であった。移植は平年より4日早い5月2日に行った。移植の前後に降雨があったため活着は順調であった。また直播栽培での播種は、平年より4日早い5月2日に行った。以後気温が高く土壌も適湿であったので、出芽は順調であった。

5月から7月までは、気温が平年に比べ大きく上下したが、生育への影響は相殺され、7月20日までの生育はほぼ平年並であった。8月上・中旬は、気温が平年より低く、降水量、日照時間が少なかったため、生育は停滞し、8月20日における茎葉重、根重、根周は平年を下回った。8月下旬以降も低温傾向が続いたため、根重は回復せず平年を下回る傾向が続いた。一方、根中糖分は、8月以降の低温、特に最低気温が低かった影響で、順調に上昇した。

収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。根重は平年を下回った（平年比約90%）が、根中糖分は平年を上回った（平年比約110%）。このため、糖量は平年並であった（平年比約100%）。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	リッカ			アマホマレ			リッカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.22	3.22	0	3.22	3.22	0	5.2	5.6	△ 4	
移植期 (月.日)	5.2	5.6	△ 4	5.2	5.6	△ 4	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.14	5.17	△ 3	
収穫期 (月.日)	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.20	△ 2	
草丈 (cm)	(5月20日)	6.6	6.2	0.4	6.1	6.0	0.1	-	-	-
	(6月20日)	27.9	25.5	2.4	27.6	27.4	0.2	13.9	13.2	0.7
	(7月20日)	55.6	55.3	0.3	53.7	53.4	0.3	51.9	47.5	4.4
	(8月20日)	58.6	63.2	△ 4.6	59.0	58.3	0.7	61.3	63.2	△ 1.9
	(9月20日)	59.1	60.6	△ 1.5	59.9	59.5	0.4	64.4	63.2	1.2
生葉数 (枚)	(5月20日)	6.1	4.7	1.4	5.3	4.1	1.2	-	-	-
	(6月20日)	10.1	11.4	△ 1.3	10.0	11.8	△ 1.8	8.6	7.0	1.6
	(7月20日)	20.4	18.7	1.7	22.4	20.3	2.1	16.6	15.0	1.6
	(8月20日)	23.2	23.0	0.2	25.1	26.3	△ 1.2	21.4	21.1	0.3
	(9月20日)	24.5	25.1	△ 0.6	27.8	28.1	△ 0.3	23.3	21.4	1.9
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	97	93	4	91	105	△ 14	13	12	1
	(7月20日)	554	575	△ 21	577	598	△ 21	347	364	△ 17
	(8月20日)	650	767	△ 117	753	881	△ 128	616	793	△ 177
	(9月20日)	662	693	△ 31	741	800	△ 59	721	719	2
根重 (g/個体)	(6月20日)	18	15	3	21	23	△ 2	1	1	0
	(7月20日)	295	270	25	275	290	△ 15	115	104	11
	(8月20日)	625	791	△ 166	641	820	△ 179	445	553	△ 108
	(9月20日)	1040	1160	△ 120	939	1171	△ 232	861	906	△ 45
根周 (cm)	(7月20日)	22.7	22.6	0.1	22.9	23.6	△ 0.7	15.8	16.2	△ 0.4
	(8月20日)	29.8	33.1	△ 3.3	32.2	34.6	△ 2.4	25.3	28.5	△ 3.2
	(9月20日)	35.3	35.7	△ 0.4	36.4	37.9	△ 1.5	32.0	33.6	△ 1.6
根中糖分 (%)	(9月20日)	16.65	14.92	1.73	17.24	15.32	1.92	15.83	14.42	1.41

表 その 2

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	3603	3811	△ 208	4690	4486	204	3950	4541	△ 591
根重 (kg/10a) (収穫期)	7267	8073	△ 806	6730	7522	△ 792	5977	6599	△ 622
同上平年比 (%)	90	100	△ 10	89	100	△ 11	91	100	△ 9
根中糖分 (%)	18.47	16.71	1.76	19.44	17.80	1.64	18.65	17.00	1.65
同上平年比 (%)	111	100	11	109	100	9	110	100	10
糖量 (kg/10a)	1342	1345	△ 3	1308	1331	△ 23	1115	1119	△ 4
同上平年比 (%)	100	100	0	98	100	△ 2	100	100	0

注) 平年値は前 7 か年中、平成22年（最凶）、平成26年（最豊）を除く 5 か年の平均。

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 萌芽期は平年より4日早い4月20日であった。冬損程度は平年並、春の被度は100%であった。

1 番草 ; 5月の気温が高く経過したため、6月の気温は低く経過したものの、1番草の出穂始、出穂期はいずれも平年より1日早く、1番草の収穫は平年より1日早い6月20日に行った。1番草収穫時の草丈は平年より10cm高く、乾物収量は平年比102%と平年並であった。

2 番草 ; 2番草収穫時の草丈は平年に比べ高かったが、節間伸長程度は平年並であった。2番草の乾物収量は平年比92%と平年より少なかった。

3 番草 ; 2番草収穫(8月10日)後、全般に平年より低温で降水量が少なかったことから3番草の草丈は平年より13cm低く、生草収量は平年の3分の1程度しかなかった。乾物率は平年より高かったものの乾物収量は平年比41%にとどまった。

1～3番草の合計乾物収量は、平年比89%と平年を11%下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.20	4.24	△4
冬損程度		1.0	1.2	△0.2
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.13	6.14	△1
出穂期	(月.日)	6.17	6.18	△1
出穂程度	1番草	8.0	8.1	△0.1
節間伸長程度	2番草	3.0	2.9	0.1
刈取日(月.日)	1番草	6.20	6.21	△1
	2番草	8.10	8.10	0
	3番草	10.4	10.4	0
倒伏程度	1番草	1.3	3.7	△2.4
病害罹病程度	1番草	1.3	1.2	0.1
	2番草	4.0	3.2	0.8
	3番草	3.3	3.1	0.2
草丈(cm)	(5月18日)	37	30	7
	(6月5日)	-	68	-
	1番草	110	100	10
	2番草再生時	38	38	0
	2番草	69	58	11
	3番草再生時	31	46	△15
	3番草	33	46	△13
生草収量(kg/10a)	1番草	2522	2896	△374
	2番草	666	859	△193
	3番草	241	711	△470
	合 計	3429	4466	△1037
乾物率(%)	1番草	24.0	20.9	3.1
	2番草	25.4	22.1	3.3
	3番草	30.4	26.1	4.3

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	603	592	11
	同上平年比(%)	102	100	2
	2番草	169	183	△14
	同上平年比(%)	92	100	△8
	3番草	73	178	△105
	同上平年比(%)	41	100	△59
	合計	845	953	△108
	同上平年比(%)	89	100	△11

注1) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、平成27年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ 作 況：平年並

事 由：播種は、早生種「オホーツク 222」では平年より1日早い2月 28 日、中生種「北もみじ 2000」では2日早い3月 9 日に行った。育苗期間中を通して気温はやや高めに推移し、苗の生育は概ね順調であった。移植は、両品種とも平年より1日早く行った。移植から6月中旬まで降水量は多めに推移し、生育は概ね順調であり、6月 20 日における生育は、「オホーツク 222」では、草丈、生葉数および葉鞘径のいずれも平年並で、「北もみじ 2000」では、葉鞘径が平年をやや上回っているものの、草丈および生葉数は平年並であった。その後7月中旬まで降水量は多く、7月の気温は高めに推移したことから、試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が若干認められたものの、生育は概ね順調であった。7月 20 日における生育は、球生重は両品種とも平年よりやや優り、草丈および生葉数、葉鞘径、葉身生重は概ね平年並であった。両品種とも倒伏期は平年より3日早く、枯葉期は概ね平年並であった。一球重は平年並で、総収量はやや上回ったものの、変形球等により規格内率はやや劣り、規格内収量は概ね平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目		オホーツク 222			北もみじ 2000		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	2.28	3. 1	△1	3.9	3.11	△2
出芽期	(月.日)	3.15	3.14	1	3.21	3.23	△2
移植期	(月.日)	5. 1	5. 2	△1	5.10	5.11	△1
球肥大期	(月.日)	7.13	7.10	3	7.19	7.21	△2
倒伏期	(月.日)	7.28	7.31	△3	8. 2	8. 5	△3
根切日	(月.日)	8.12	8.13	△1	8.18	8.24	△6
枯葉期	(月.日)	8.19	8.20	△1	8.24	8.26	△2
収穫期	(月.日)	8.29	8.30	△1	9. 4	9.10	△6
草丈(cm)	移植時	26.1	20.0	6.1	24.8	20.5	4.3
	(6月20日)	47.5	45.7	1.8	37.9	36.3	1.6
	(7月20日)	86.5	85.5	1.0	87.8	84.6	3.2
生葉数(枚)	移植時	2.7	2.8	△0.1	3.2	3.0	0.2
	(6月20日)	6.4	6.6	△0.2	5.9	5.7	0.2
	(7月20日)	9.6	9.7	△0.1	9.4	9.7	△0.3
葉鞘径(mm)	移植時	3.7	3.7	0	4.2	3.6	0.6
	(6月20日)	12.3	12.0	0.3	10.5	9.6	0.9
	(7月20日)	21.9	21.8	0.1	21.8	21.1	0.7
葉身生重(g)	(7月20日)	172.0	166.8	5.2	152.3	140.2	12.1
球生重(g)	(7月20日)	116.5	109.0	7.5	73.3	66.5	6.8
	(8月20日)	261.1	274.4	△13.3	242.2	246.5	△4.3
総収量(kg/10a)		7980	7731	249	7375	6976	399
規格内収量(kg/10a)		6729	6821	△92	6587	6398	189
同上平年比(%)		99	100	△1	103	100	3
規格内率(%)		84	88	△4	89	92	△3
平均一球重(g)		254	257	△3	237	231	6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

平成29年度北見農試定期作況報告における小豆および菜豆の訂正について

8月20日現在の小豆の表

エリモシヨウズの主茎長の「平年」

72.3 (誤) ⇒ 72.7 (正)

これに伴い同上の「比較」

△ 5.0 (誤) ⇒ △ 5.4 (正)

7月20日、8月20日、9月20日、10月20日現在の小豆の表における「注」

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、24年(最凶)を除く5か年の平均。(誤)

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。(正)

10月20日現在の菜豆の表

層粒率の「本年」

36.3 (誤) ⇒ 16.2 (正)

これに伴い同上の「比較」

29.0 (誤) ⇒ 8.9 (正)

7月20日、8月20日、9月20日、10月20日現在の菜豆の表における「注」

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。(誤)

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。(正)